

初級フランス語クラスにおける振り返りノートの効用について A Report on the Effectiveness of Using Comment Notebooks for Students to Review Their Study in French Beginner Classes

三上 純子
Mikami, Junko

Abstract

Since 2011, in my French beginner classes, I have had students write questions and comments at the end of each class on a sheet of paper, to which I would respond the following week. This comment sheet has been further developed each year and has become a kind of notebook for students to reflect on their study. Having used this teaching format for four years, in this paper I report on the benefits it offers to both learners and teachers.

1. はじめに

本センターでは 2010 年度に大阪市立大学大学院文学研究科教授の福島祥行氏をお招きし、「外国語教育における学習ポートフォリオの活用—初級フランス語における導入の試み—」という講演をしていただいた¹。構築主義の理論に基づいた、グループによる協働的な学びを基調とした授業実践のお話は、学生の自己評価を最終評価とする点も含め、大変興味深いものであったが、その独創性故に自分の授業にすぐに取り入れるのは難しく思われた。しかしながら、講演後に学習ポートフォリオにふれて「書かせてみると学生たちは授業についていろいろなことを書きますよ」とおっしゃっていたのが心に残り、2011 年度から初級クラスで毎回の授業後に学生たちに質問や感想を書いてもらう試みを始めた。さらに 2012 年度からはそれを充実させる形で「学習日誌」と呼ぶ振り返りノート（シートを綴じたもの）を使うようになった。本稿ではこの実践を踏まえ、2014 年度版学習日誌について、その形式と使い方、授業者としての役立て方及び受講者のアンケート結果を報告すると共に、課題の検討を行う。

2. 2014 年度版学習日誌の形式と実践方法

2014 年度版学習日誌を提示する前に、2011 年度の状況について簡単に説明しておく。2011 年度に導入した際に使用したのは、A4 版 1 枚の紙に 15 回分の授業の日付欄と「今日頭に残ったこと」という自由記述欄があるだけの他大学で作成されたシートであった。こ

¹ 福島祥行：「外国語教育における学習ポートフォリオの活用—初級フランス語における導入の試み—」、『外国語教育フォーラム』第 5 号、2011 年、14-26.

の自由記述欄に、受講者に授業後、質問、学習事項、感想等を書いてもらい、翌週に私がコメントを入れて返すという形で実施した。年度末に学生にアンケートをとったところ、85%以上の学生がよい試みであったと評価し、自由記述によれば、授業の終わりに振り返りを行うことにより、自分の理解していないところや難しいところを認識できたこと、教員とコミュニケーションがとれたこと、の二点が主な評価点であるように思われた。さらに学生自ら、「記入欄をもっと大きくする方がよい」、「項目を増やすとよい」等の改善のための提案をしてくれた。こうしていれば学生の声に励まされ、2012年度からは毎週 A4 版 1 ページに具体的な振り返りの項目を入れたシートに記入してもらうことにした。

以後毎年項目の見直し、修正を行い現在に至っている。2014年度版の項目は以下の通りである。

○授業外の学習（復習や予習など）

①宿題をしましたか。

- 1) しなかった 2) 一部しかしなかった 3) 大部分した 4) 全部した

②CDを聞きましたか。

- 1) 聞かなかった 2) ほとんど聞かなかった 3) 時々聞いた 4) よく聞いた

③宿題以外にやったこと（記述式）

④授業外の学習時間（宿題、CD、宿題以外の学習の合計）

- 1) 30分未満 2) 30分～1時間 3) 1時間～1時間30分
4) 1時間30分～2時間 5) 2時間以上

○授業

①今日の学習事項（記述式）

②今日の授業の理解度

- 1) 理解できなかった 2) 少ししか理解できなかった
3) 大体理解できた 4) よく理解できた

③楽しく取り組めたこと・難しかったこと・質問・学習上の気づきなど（記述式）

今年度新たに加えた項目は、「授業外の学習（復習や予習等）」の中の「授業外の学習時間」である。これは、単位の実質化を目指し、シラバスに授業外の学習内容の記述が求められる状況の中で、学生自身に「授業外の学習」の必要性を認識してほしいと考えたためである。

授業者のコメント欄は特に設けておらず、「授業」③の受講者のコメントの後に記入している。時には「宿題以外にやったこと」等にもコメントを入れる場合もある。

配付については、前期は1枚ずつシートを渡し返却後の保存を推奨したが、後期は全授業分のシートを綴じたノートを使った。

受講者には、初めて学習日誌を渡す際に、このノートは自分の学習状況を振り返るため

のものであり、学習についての気づきも加えてぜひフランス語の学習に役立ててほしいと伝える。また質問については、授業中に口頭でも積極的に質問してほしいが、時間がない場合や書く方がよい時にはこのノートを使って質問してほしいと付け加える。さらに「授業外の学習」については、各自の平常の学習態度の評価の際の資料とすることも知らせる。

実施方法を再確認しておく、受講者は毎回授業の終わりに、1週間の学習状況とその日の授業を振り返り、日誌に記入して授業者に提出し、授業者は翌週までに確認の印やコメントを入れ、次回の授業の冒頭にこのノートを返却するという手順である。学生に記入してもらう時間は5分程度で、慣れてくると学生は練習を早目に終えた時等に少しずつ記入している。なお、授業者がシートの確認とコメントを入れる作業にかかる時間は、平均すると一人1~2分程度である。

3. 学習日誌の活用法

では学習日誌は授業者にとって具体的にどのように役立っているのか。このことは受講者の活用の仕方にも関わっているので、受講者の記述例も適宜引用しながら述べることにする。

3-1. クラス全体の理解度の把握

まず授業後に学習日誌の「今日の授業の理解度」の項目をチェックすると、その日の授業が概ねどの程度理解されていたかを知ることができる。また、難しかったことの記述や質問により、補足説明や復習の必要性等がわかる。質問には個別に答えると同時に、複数の受講者が同じ学習項目について質問している場合は、次の授業の冒頭でその質問を取り上げクラス全体に説明したり、追加資料を配付する等している。また数年にわたり学習日誌の記述を読んでいると、文法やコミュニケーションの授業のどのあたりで受講者が躓きやすいかということも予測できるようになるので、よりわかりやすい授業を心がけることにもつながった。

3-2. 各受講者の学習プロセスの観察及び働きかけ

「授業外の学習」の各項目は、受講者に自分の学習状況を振り返ってもらうという目的を持っているが、この項目をチェックすると、授業者も各自がどの程度の時間をかけて宿題や自主的な学習を行っているかを確認できる。小テストや定期試験によって測れる達成度とは別に、学習日誌は各自の学習プロセスを評価するためのよい資料となる。また、その資料をもとに個人的に働きかけることにより、脱落者を出さない工夫をしたり、意欲的な学生を励まし、より自律的な学習に向かわせたりすることもできる。以下に小項目の活用について説明する。

宿題については、提出させるもの以外は教室で一緒に答え合わせをするので、準備不足の学生は概ね把握できるが、学生自身がそのことを記録することで、反省する糸口になる

と思う。宿題が全部できていない学生には、「頑張りましょう」のコメントを入れ、その状況が修正できない時は、宿題は授業についていくための最低限の復習である旨述べて注意を促す。

CDの項目は、CDを十分に活用して学習内容を身につけてもらいたいと考えて入れている。授業の際に、CDを聞くこと、シャドーイングすることの重要性を説いているが、毎回CDを聞いたかどうかをチェックすることで、以前よりもCDの活用率はかなり上がった。自由記述欄の学生のコメントの中にも「CDを聞いて、正しい発音のマネをしようと思う。もっと上手になりたい」、「聞き取りの宿題が難しかった。もっとCDを聞いて勉強しようと思った」、「全体的に新しいことを多く習ったので、しっかりと復習してCDを聞いて定着させたい」のようなコメントが増えた。「宿題以外にやったこと」の中にも「CDを聞いて復唱した」、「CDを聞いて書き取りした」等が見られ、CDを使った勉強法がある程度浸透している様子がうかがえる。

学習時間の項目は、各受講者の学習状況を把握できることに加えて、授業者にとっては、宿題の分量が適切かどうかを判断するのに役立つ項目でもある。短時間で宿題ができていない学生が多い場合は、宿題の量を増やす、小テストを加える等の対応も考える。学生個人については、同じ練習問題にかかる時間も人によって異なるので、必ずしも学習時間が長ければよいとも言えないが、30分未満が続く場合には、他の学生が行っている自主学習などを紹介し、学習内容の定着のためにもう少し時間をかけて復習するよう提案している。「学習時間」の項目は今年度初めて入れたので、これまでとの比較はまだ十分にはできないが、各学期末に共通教育で実施している「授業改善のための学生アンケート」中の「予習・復習にかけた時間」が選択必修のコミュニケーションクラスの今年度前期末の結果では、従来に比べて伸びていた。

「宿題以外にやったこと」は、学生に自由に書いてもらう。先にふれたCDを含めた教科書の予復習以外にもさまざまな内容が挙がっている。学期初めに紹介したテレビやラジオのフランス語講座の視聴、単語帳や学習事項のまとめのノート作り、動詞活用のメモ作り、教科書を音読して自分の声を録音してみる、フランス語で日記を書く、仏検の問題集、シャンソンを聴く、フランス映画を見る、フランスの留学生に発音を教えてもらう等。こうした試みは必ずしも継続的なものではないし、教科書の学習内容に直結していない場合もある。しかしモチベーションを高めるためにも、私は基本的にこうした自主学習を奨励している。また1年の単位で日誌の記述を見ていると、「新しく習った *j'adore* はNHKのフランス語講座でよく使われていたので、改めて聞いてなるほどと思った」のように、他の学習媒体と授業内容が学生の中で次第にリンクしていく様子も観察できた。さらに、こうした自主学習については、こんな勉強をしている人もいますという形で、折にふれクラスで紹介することにしていく。その結果、他の学生とくらべて宿題だけしかしてこなかった自分の学習態度を反省する受講者もいた。学習者の自律を促すという意味では、授業者が課題を提案するよりは学習者同士が刺激し合う方が望ましい。学習日誌は授業者を媒介

とした形ではあるが、受講者同士のコミュニケーションを促し、各自の学習姿勢の見直しにもつながっていると思われる。

3-3. 受講者との交流

今まで見てきたように、受講者の学習プロセスに注目することで、授業者は個別に必要なに応じた働きかけをすることもあるが、受講者との交流の大部分は「楽しく取り組めたこと・難しかったこと・質問・学習上の気づきなど」の自由記述欄の相互的なコメントを通して行われる。受講者のコメントは分量的には2~3行のものが多く、中には毎回5行以上の振り返りを行う受講者もいる。参考までに、以下にコミュニケーションクラスのコメントパターンを授業者の主な対応と共に示す。

1) 授業で楽しくできたこと

「発音のルールも定着してきて、フランス語も楽しくなってきました」「いろいろなことが質問できるようになってきて面白い」「数字の聞き取り、難しいですが分かってくると面白いなと思いました」「前よりも人物について話せる内容が増えて楽しいです」

楽しいと感じられる時はペアワーク等がうまくいった場合や、表現の幅が広がり進歩していると実感できる時のようだ。自分自身の努力の結果「~できるようになって楽しい」という自己評価を含めた記述も見られる。授業者は共感を持って受けとめ、励ます。

2) 授業で難しく感じたこと

「鼻母音の発音が難しかった」「男性名詞と女性名詞の区別が難しい」「リエゾンなどの語末の変化にとまどった」「長い文やスピードが速いと聞き取りが難しい」

この種のコメントには見直すべき教科書のページや学び方のヒントを示す等の対応をする。また自分にとって何が難しいか気づくことは、上達するための第一歩だと励ます。

3) 授業で学習した事項についての質問

「リエゾンはアクサンのように表記する必要はないのですか」「自分の名前をいうとき Je m' と自分を表す単語を二つ並べるのはなぜですか」「疑問文の Est-ce que はつけると丁寧になるということですか。フランス語にも敬語は存在するのでしょうか」

質問には基本的に個別に答える。先にも述べたように、同じ質問が多い時は次週の授業で取り上げる。また優れた質問が多い受講者については、学習プロセスの評価に加える場合もある。

4) 振り返りと復習の意志表示

「定冠詞、不定冠詞などが混乱して曖昧な部分があるのでテストまでに整理して覚えたい」「疑問文で忘れていたものが多かったので、もう一度よく復習したい」「まだ質問がスムーズに発音できないので練習したい」「動詞の意味、活用がまだまだあやふやなのでしっかり覚えたい」

多くの受講者は、次第に「～が難しかった」という 2) の書き方ではなく「～が難しかったので、練習する、復習する」という書き方をするようになる。対応としては、場合によっては勉強の仕方のヒントを与え、ぜひ実行するように激励する。実際に復習が行われているとは限らないが、授業の終わりに学習者が問題を自覚し、何をすべきか考えることは意味がある。なお学生は予想以上に「テスト頑張る」といった意志表示を行うので、こちらでも「Bon courage!」と励ましのメッセージで答える。

5) 学習上の気づき

「復習をしっかりすればしっかり覚えられることがわかったので継続していきたい」
「CD 聞くと授業の楽しさ up する」「CD を聞くようになって発音がしっかりできるようになってきたので、会話にもっと積極的に取り組みたい」「今日の授業は充実していた気がする。予習した方がいいことに気づいた」「英語を通して学んでみると割と学びやすいなと思った」

学習者が自律的に学べるようになるためには、何をすると進歩するかを自分で理解することが大切である。上記のような気づきに対しては大いに褒め、続けるように励ます。例えば「予習の効果を実感できたのはよかったですね。復習も大切ですが、予習もしておくとうまく活用できます」といったコメントを返したり、英語とフランス語が同時に学べる参考書を紹介したりする。またこうした気づきは、授業で他の学生にも伝えるようにしている。

6) 授業外のフランス語やフランス文化についての質問

「ラ・マルセイエーズの歌詞でよくわからないところがあるので教えてほしい」「フランス語のニュースとか TV を見てみたいです」「フランス語の文構造はどんな感じですか」

こうした質問に対しては、個別に答える他に、資料を配付して授業で取り上げたり、インターネットのサイトを紹介したりする。

7) 学習法についての相談

「先生はどのようにフランス語を勉強したのですか。よい勉強法があったら教えてください」

さい」「定期試験前の勉強の仕方についてアドバイスお願いします」

個別の悩み以外には、授業の際にクラス全体に対して答えることが多い。

8) 授業についての要望

「小テストはこまめにやってくれた方がよく勉強するようになります」「リスニングの質問文が書いてあるものがあると嬉しいです」

要望には、できる限り応えるようにしている。

以上のように、授業者のコメントは、学習上の助言や質問に対する答を除けば、ほとんどの場合励ましを中心としたものである。学習者が学習に対するメタな意識を持ち始めている時には、ほんの少し背中を押すだけで学習意欲の維持につながる。学習日誌を通じた学習支援は自転車の補助輪のような役割を果たしているように思われる。

4. 受講者のアンケート結果

次に受講者に対して行ったアンケートを中心にして、受講者自身の学習日誌に対する評価を見てみたい。学習日誌については、毎年度末に学生にアンケートをとっているが、ここでは今年度末にとったアンケート結果を示す。今年度学習日誌を使用した初級クラスは5クラス、内訳は選択必修 文系1年生対象（コミュニケーション）1クラス、あとはすべて自由選択で理系1年生対象（文法）1クラス、理系1年生対象（コミュニケーション）1クラス、半期遅れ（文法）1クラス、半期遅れ（コミュニケーション）1クラスである。このうち半期遅れ（コミュニケーション）1クラス分を除いた4クラス分60名のアンケートの回収結果である。

4-1. 振り返りをすることについて

各授業の終わりに振り返りを行うことについての質問は以下の4問で、括弧内は実数である。

1) 学習日誌の項目のうち、「授業外の学習」の項目は、受講者の皆さんに自分の学習の状況を振り返ってもらいたいという意図を持ったものですが、その意味で役立ったと思いますか。

- 1 全く役立たなかった (0) 2 どちらかといえば役立たなかった (2)
3 どちらかといえば役立った (38) 4 とても役立った (19) 無回答 (1)

2) 「授業外の学習」の項目のうち、学習状況を反省するのに役立ったと思われることに○をつけてください。複数回答可。

- 1 宿題 (34) 2CD (25) 3 宿題以外にやったこと (27)
4 授業外の学習時間 (22)

3) 「授業」の項目のうち、「今日の学習事項」の項目は、授業の最後に勉強したことを意識してもらおうという意図を持ったものですが、その意味で役立ったと思いますか。

- 1 全く役立たなかった (0) 2 どちらかといえば役立たなかった (1)
3 どちらかといえば役立った (37) 4 とても役立った (22)

4) 「授業」の項目のうち、「今日の授業の理解度」の項目は、自分の学習状況を反省するのに役立ったと思いますか。

- 1 全く役立たなかった (1) 2 どちらかといえば役立たなかった (5)
3 どちらかといえば役立った (32) 4 とても役立った (21) 無回答 (1)

以上のように、4) については役立ったという回答率が 88%とやや低かったが、1)、3) については 95%を超える受講者が、肯定的な評価をしている。2) についても、複数の項目を選択している受講者が多く、選択肢の項目が学習を促すためにある程度役立っていると考えられる。日誌のコメントにも、個別の学習項目についての反省だけでなく、「今回は自主学習が少なかったと反省」「今回は宿題以外の学習ができなかった。時間を見つけてフランス語の勉強をしたい」といった、自学自習を念頭においた振り返りが見られた。さらにアンケートの自由記述では「自分の学習を振り返ることで、ここをこうしよう、ああしようといった改善ができてよかったです」「宿題以外何も勉強しないのはまずいと思い、勉強するようになったのでよかったです」「授業外の学習を意識することで、学習時間が伸びた。その学習のおかげで、より理解が深まったと思う」「学習日誌で自分の学習習慣を振り返ることができて、勉強のモチベーションが上がった」等、学習日誌の効用にふれた受講者も目立った。これらの記述からは、日誌を通じて自律的な学習姿勢が育ちつつあり、受講者がその成果を実感している様子がうかがえる。

4-2. 授業者とのコミュニケーションについて

受講者と授業者のコミュニケーションについては、自由記述欄を中心に問うた。

5) 「授業」の項目のうち、自由記述欄は、受講者と教員のコミュニケーションに役立ったと思いますか。

- 1 全く役立たなかった (0) 2 どちらかといえば役立たなかった (1)
3 どちらかといえば役立った (11) 4 とても役立った (48)

6) 自由記述欄の教員の回答で参考になったと思われることに○をつけてください。複数回答可。なお 4 を選択した人は具体例を記入してください。

- 1 質問に対する回答 (39) 2 学習上の助言 (46) 3 フランスの生活文化 (11)
4 その他 (0)

自由記述欄が授業者とのコミュニケーションに役立ったと感じている受講生の割合は 98% に達している。これまで述べてきたように、私は毎週受講者の記入項目を確認し、自由記述欄に書かれた質問に答え、学習の気づきや授業についての感想等にコメントを返している。30 名を超えるクラスの場合、授業者が教室で受講者一人一人と交流するのは難しいが、日誌を使うことで、各受講者と個別のコミュニケーションをとることが可能となる。とりわけ対面のコミュニケーションが苦手なタイプの学生にとっては、日誌は使いやすいコミュニケーションツールではないかと思う。また授業者の側も受講者の 15 週分のシートを見返すと、ある程度各自の人柄を感じることができる。

自由記述の中には次のようなコメントがあった。「毎授業、疑問点を気軽に聞けたことがよかったです」「学習上の注意点や助言があったのはよかったと思う」「先生がアドバイスを与えてくれるので、モチベーションの維持につながった。特に授業でぼんやりとこれが難しかった、興味を持ったというような思いを抱いたことについて、新たな知見を与えてくれるものの紹介や学習上のコツを教えてもらえたのがよかった」「いつもコメントをいただけてうれしかったです」個別の質問に対する回答の他に、クラス全体に向けて行っている学習についての助言も受講者にとってある程度役立っているように思われる。また一人一人にコメントを返すことにも、励ましの意味はあるようだ。

5. おわりに

以上見てきたように、学習日誌は受講者にとっても授業者にとっても有効な振り返りの手段になりうる。すなわち学習者にとっては自分の学習の仕方やその結果を振り返って、課題を見だし克服していくためのツール、授業者にとっては受講者の振り返りを読んで授業の反省を行うとともに、受講者支援の働きかけを行うためのツールである。受講者と授業者は学習日誌を介して交流しつつ相互的に成長できる可能性がある。

しかしながら、今回学習日誌についての振り返りを行ったことで、課題も明瞭になった。まず形態に関わる問題である。日誌を後期にノート形にしたところ、見やすかったという声があった反面、学期中に学習日誌を振り返って読むことが少なかったので、学習日誌を有効活用できず残念だったという意見もでた。ノートにすると授業者が 1 週間預かるため、受講者が全体をゆっくり振り返ることができるのが学期末となってしまいうからであろう。ただしシート形ではきちんと保存されるかどうか心もとない。ノートのままで、前期、後期の中間点と各学期末にこのノートを見直して学習を振り返る機会を設けるとするのが一案である。今後本学でクォーター制が導入された時には、8 週目に 1 クォーター分のノートを見直すことになる。

ところで、現在使っている学習日誌ではポートフォリオによく見られるような到達度の

自己評価は行っていない。しかし、受講者の振り返りのコメントには「～できるようになってきた」といった自己評価も含まれている。そこで、各クォーターの学習目標の到達度を記入するループリックを別に作成し、振り返りノートを参照しながら受講者に自己評価してもらおうという仕組みにすれば、受講者には進歩がよりはっきりと感じられ、学習へのモチベーションがより高まるように思われる。

三点目として、能動的な学習という観点から見ると、現行の学習日誌は、学習者の自律を目指しつつも授業者主導の学習支援であることは否めない。受講者同士の学び合いについては、授業中のペアワーク等により進めているつもりだが、学習上の気づき等を受講者同士教え合うような場を作ることも考えていきたい。

第二外国語は大学生になって一から学ぶ科目なので、学生にとっては学習プロセスを意識化しやすい科目だと思われる。フランス語の受講者には一義的にはフランス語の運用能力を高めてほしいが、それだけでなく、学習の振り返りを通じて学習主体としての自分を客観的に見る目を養い、フランス語学習の体験を英語や第三の外国語の学習にも活かしてほしいと願っている。獲得された自律的な学習能力は大学だけでなく生涯にわたって学習を続けていくためにも有用であろう。

何を学ぶにも学習者の意欲が一番大切である。後期の定期試験の前に「復習が進んできて、授業の理解度が上がってきて、フランス語がより楽しく感じてきた。来週の試験頑張る」と書いた学生がいた。自分で勉強すると学習内容の理解が深まり、より楽しく学べるようになると実感した学習者はすでに自律的な学習への道を歩み始めている。今後も振り返りノートの実践を重ねつつ、受講者の自律的学習に向けた歩みを支援していきたい。